

課 題 着色用ハボタンの節間調整方法の検討

担 当 者 浪花 恵

目 的 花卉出荷組合で取り組んでいる切花用ハボタンにおいて、収穫後に染色して出荷する着色ハボタンの需要が高い。他産地との差別化をするため、組合で着色ハボタンに取り組むことも検討しているが、着色に向く純白の品種であるフレアホワイトの葉数が少なく節間も長いため取り入れるのが難しい。生育後半の矮化剤の使用で草姿の改善を図る。

供 試 品 種 フレアホワイト（タキイ種苗）

供 試 試 薬 スミセブン、ビーナイン

区制及び供試本数 1区制 1区40本

1区 スミセブン 10倍液散布 11月4日 1回
2区 スミセブン 10倍液散布 11月4日、16日 2回
3区 ビーナイン 200倍液散布 11月4日 1回
4区 ビーナイン 200倍液散布 11月4日、16日 2回
5区 無処理

耕 種 概 要 栽培条件 施設
播 種 7月19日 2粒落とし
定 植 7月27日
採 花 12月6日
栽植密度 畝幅150cm×株間12cm 6条植え 6,600本/a
施 肥 量 無施肥

調 査 項 目 切花長、花径、着色葉数、花づまり

結果及び考察

- 1 収穫物を横から見た様子を図1に示した。1~4区については、中央部が盛り上がっていないが、5区については中央部が伸びあがっているのがわかる。
- 2 わかりやすくするため、着色部(白色葉の部分)だけを切り取り、縦に切ることで茎の長さを図2に示した。1~4区については伸長が抑えられているのに比べ、5区は節間が伸長していることがわかる。
- 3 収穫物調査の結果を表1にまとめた。切花長については、区の間で大きな違いはない。出荷するための切花長はLで51~70cm(高志地区花卉出荷組合での規格)であり、どの区も十分に伸長している。花径及び着色葉数についても、区の間で大きな違いはなかった。葉数についてみた場合、露地よりも施設(1~5区)が少なくなった。
- 4 ハボタンを上から見た様子を図3に示した。葉数、花径とも大きな差はないため、上から見ると、形状は同じように見えた。矮化剤を使用した1~4区について、再緑化がみられた。特にスミセブンを2回散布した2区では100%再緑化となり、観賞価値が下がった。
- 5 以上の結果から、スミセブン、ビーナインとも、着色後に散布することにより、着色部の節間の伸長を抑え、中心部の盛り上がりを防ぐことはできるが、再緑化を誘発する傾向があることが

わかった。葉数を増やすことはできないものの、節間の伸長を抑えることで、見栄えが良くなった。矮化剤は1回でも効果が得られることがわかったため、来年度は、濃度を調整することにより、再緑化を抑えつつ、節間の伸長を抑えたい。

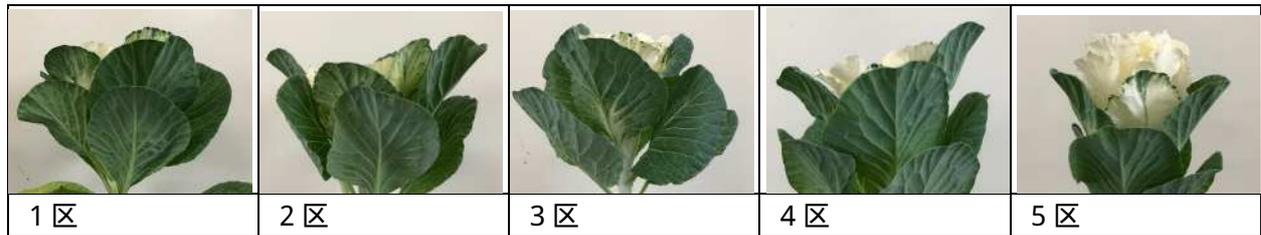


図1 ヒボタンを横から見た様子



図2 着色部の茎長比較 左から1区、2区、3区、4区、5区

表1 収穫物調査結果

	切花長 cm	花径 cm	着色葉数	着色部茎長 cm	再緑化率
1区スミセブン1回	92.7	11.0	22.9	4.5	20%
2区スミセブン2回	88.7	9.9	20.6	3.8	100%
3区ビーナイン1回	98.1	9.6	22.7	5.1	15%
4区ビーナイン2回	102.0	9.7	19.9	4.0	10%
5区無処理	99.1	9.5	20.9	7.6	0%
区外露地	72.5	12.4	31.5	5.9	0%

着色葉数は、白く発色した葉のうち、縦2cm以上の葉数

着色部茎長は、着色した葉がついている部分の茎長



図3 ヒボタンを上から見た様子 左から1区、2区、3区、4区、5区